

# 近江鉄道 観光案内

by KAZUTARO

## ▲ 多賀大社 (たがたいしゃ)

滋賀県犬上郡多賀町

近江鉄道多賀駅から10分

近江鉄道多賀駅から神社にいたる参道には、大鳥居が立ち、門前町としての風情が漂う。神社前にはみやげ物屋が並び、お玉杓子の語源となったと言われる「お多賀杓子」や、金太郎飴風のアンコ餅である「糸切餅」が売られている。また有料駐車場も整備され、観光バスも立ち寄るなど、今回の取材で訪れた中で唯一賑やかな観光地である。

さて大社には、石でできた反り橋を渡っていくのがメジャーだ。ただしミニスカートの女性と足元のおぼつかないオールド嬰兒(?)の方々は、やめたほうがいいぞ。

門をくぐるといよいよ境内だ。玉砂利が敷き詰められた境内には、松が植えられており、顔を上げると、歴史を感じさせる木立を背景に、社殿が左右対称に翼を広げている。日本神道ここにありといった荘厳な雰囲気だ。

けどわしらは「日が照るとあついなあ、ビール ビール!」とか「わしは信仰心なんか無いもんね、単に文化財として見にただただかんね」とか言って、決して荘厳な雰囲気になんか ならないのであった。





↑多賀大社正門前の太鼓橋。  
もっと渡りやすく造っとかんかい！



↑多賀大社全景。熱心な参詣客が押しかけていた。

▲ 八幡山 (はちまんやま)

滋賀県近江八幡市宮内町

近江鉄道近江八幡駅からバス5分＋徒歩5分＋ロープウェイ5分

賤ヶ岳の合戦などで戦果をおさめた豊臣秀吉の甥・秀次が、近江四十三万石の居城を、この八幡山においた。秀次は、秀吉の養子となり関白にまで出世するが、秀吉の待望の実子・秀頼が誕生するにいたり、高野山で自害させられる。その後、城は廃城となったが、町は近江商人の活動の中心地となり、江戸時代を通して栄えた。

現在、八幡山の城跡には、秀次の菩提を弔うために秀次の母（秀吉の姉）が京都に作った瑞竜寺が移転してきている。また麓からロープウェイが通っており、気軽に山頂まで登ることができる。

我々取材班は八幡山ロープウェイに乗り込んだ。ゴンドラのきしみが秀次の無念を代弁しているかのようだ。我々は秀次の悲哀をかみしめつつ、粛々たる気持ちで山頂を目指した……わけがないのだ。麓ではアイスクリームを食べ、山頂ではちょっと汗をかくと、すぐさま「ビール！ビールが飲みてえ！」とわめきちらし、どう考えても歴史紀行ドキュメントタッチにはなりそうもない集団だ。なぜなら我々は、単に高いところが好きなだけだからだ。

山頂付近からは西に琵琶湖、東に西ノ湖、南には八幡市街とまざまざの展望がひらける。が、視界を遮る木々が多いことと、当日はあまり天気が良くなかったこともあって、正直な話、ロープウェイに乗ってまで来るほどの所ではないように思った。



↑八幡山から近江八幡市内を臨む

←八幡山にたたずむハーモニカ親父

▲ 太郎坊宮 (たろぼうぐう)

滋賀県八日市市小脇町

近江鉄道太郎坊駅から20分

荒々しく岩肌が露出した赤神山の中腹に太郎坊宮はある。独特の地方信仰であり、勝運授福の靈験があると言われている。

世界制服を第一義とする我々にとって勝運は必要不可欠。何をさておいても太郎坊宮を目指したのだった。

近江鉄道の太郎坊駅から灯籠を従えた参道がかなりの間続き、それが終わると742段の仰ぎ見るような石段が始まる。取材班の中からSが742段に挑戦した。HとMは中腹まで車で登っていった。

胸突き八丁の石段を登り終わると、人がひとり通れるだけの幅の隘路がある。大きな岩が天のいかづちによって裂かれたかのような。取材陣は頭上注意を心がけクリアした。

急に視界が開けるとそこには、光が溢れ花は咲き乱れ風は爽やかに妖精達が歌い踊る秘密の花園があった……  
わけはなく、太郎坊宮の簡素な本殿があった。

我々は世界制覇の野望を高らかに宣言し、護摩木にもその旨をしたため、神の御加護のあらんことを祈った。

汗が冷えてきた我々は、登ってきた道を乳酸の溜まった足を引きずって降りていた。

おわり



↑ 神様が開けてくれたという岩の隙間



↑ WBF優勝祈願を胡麻木に託す